

hap·py

go

luck·y

【ハッピー・ゴー・ラッキー】

形 人の行動が のんきな、気楽な。

名 10代におくるブックガイド。

はぴ 16 号

2012年4月発行

【編集】はぴ編集委員会

【発行】さいたま市立中央図書館

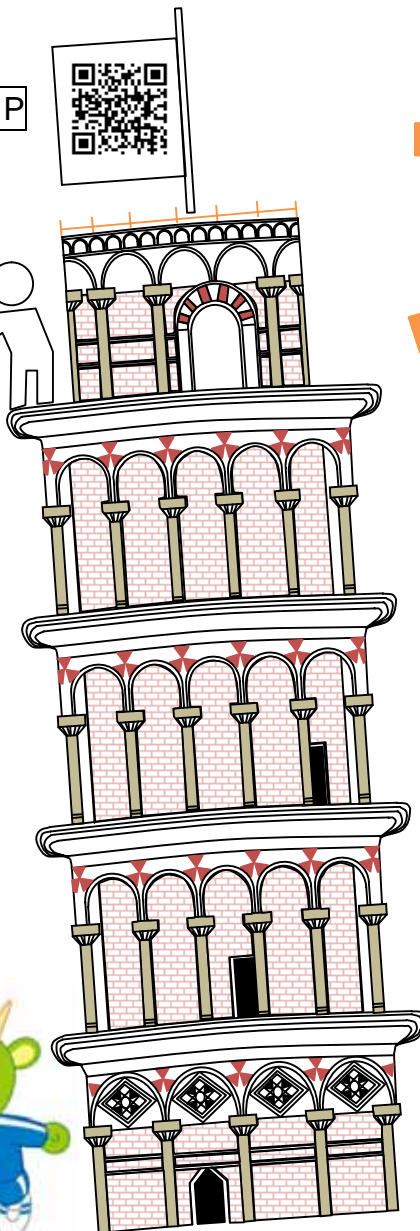
浦和区東高砂町 11-1

TEL 048-871-2100

FAX 048-884-5500

HP <http://www.lib.city.saitama.jp/>

携帯 HP



塔
ヲ
読
ム

『 ナシスの塔の物語 』

みおちづる作 ポプラ社 1999年



砂漠の町、ナシス。パーティー屋の息子リュタは、父のもとで厳しい修行の日々を送っていた。一方、町の笑われ者のトンピは、育ての親の遺言を信じ、集めた石で丘に塔を作り始める。

ある時、ナシスに、はぐるま屋が開店し、町は豊かになっていった。しかし、リュタの父は昔ながらの製法にこだわり続ける。リュタは父への反発と思ひこみから、タネづくりのコツをはぐるま屋に教えてしまう。さらに、石の塔が立つ丘に、はぐるま工場を作るため、トンピは立ち退きを迫られる。

2人を待ち受ける運命は？

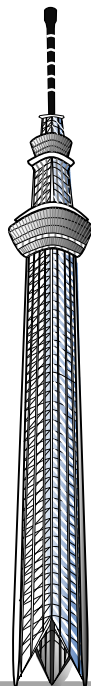
『 鉄塔 武蔵野線 』

銀林みのる作 新潮社 1994年



5年生の見晴は送電線の鉄塔が大好きだった。夏休みに見つけた左右非対称の変った鉄塔には、「武蔵野線75-1」と表示されていた。次の鉄塔は76番。なぜ75-2ではなく76なのか。面白くなって、終点の81号鉄塔まで追いかけた。今度は1号鉄塔まで行けたらどんなに楽しいだろう。

見晴は鉄塔に残す記念のメダルを持って、友達のアキラと自転車で出かけた。鉄塔は雑木林の奥や畑の真ん中、時には霊園内に立っている。2人は一つひとつ形が違う鉄塔に「婆ちゃん鉄塔」、「ピッコロ鉄塔」と名付けながら道なき道を進んでいく。



『 スカイラー通り19番地 』

かねはらみずひと
E.L.カニグズバーグ作 金原瑞人訳
岩波書店 2004年



マーガレットの大好きなアレックスおじさんとモリスおじさんが住む家には、2人が45年かけて作った3つの時計塔が建っていた。

12歳のマーガレットは、両親の旅行中に参加したサマーキャンプで、同室の女の子たちに嫌がらせを受ける。アレックスおじさんに救われて、おじさんたちの家で暮らすうちに、今度は大切な塔が取り壊されることを知る。

マーガレットが塔を守るために始めた運動は、彼女と塔を愛する仲間の力を集め、大きな話題を呼び起こす。

『 333のテッペン 』

さとうゆうや
佐藤友哉作 新潮社 2010年



東京タワーのてっぺんで殺人事件が起きた。333メートルの塔頂部に死体が置かれていたのだ。なぜ、そんなところで殺されたのか？その方法とは？

26歳のフリーター・土江田は、バイト先である東京タワーが注目されることに戸惑っていた。事件はすぐに解決し、再び単調な毎日が続くかのように見えた。

しかし、トレンチコートの胡散臭い探偵やセーラー服姿の少女がタワー内をうろつく中、第2の殺人が起こる。

同時収録作品、『444のイッペン』『555のコッペン』『666のワッペン』のプロローグ的物語。

【もっと！「塔」の本】

小説の回し書きが流行していた女学院で起こった事件『倒立する塔の殺人』(皆川博子作 理論社 2007年) 国境の非武装地帯に突然現れた塔の謎をめぐって争いがおきる「塔」他39編のショートショートを取めた『ひとにぎりの未来』(星新一作 新潮文庫 1980年) 唯一かけがえのないもの、オカンとの日々『東京タワー』(リリー・フランキー作 扶桑社 2005年) 古今東西の建築物を体を張って表現『けんちく体操』(チームけんちく体操作 エクスナレッジ 2011年) ある京大生と彼をとりまくリエナイ日常『太陽の塔』(森見登美彦作 新潮社 2003年) 敗戦から十年足らずの日本で、世界一高い電波塔を建てた とび職人たち『東京タワー 恋人たちの戦い』他3編『ジュニア版 NHKプロジェクトX』(汐文社 2001年)

まるで、ふたつのタワーが呼吸をしているみたいだ、と彼は思いました。
でも、ちっともこわくない。
ここには、ぼくひとり。なんて幸せで、自由なんだろう。(本文より)



上空から地上を見下ろす構図にクラクラ。
本文中にはもっと怖い絵があります！

『綱渡りの男』

モーディカイ・ガースティン作 川本三郎訳
小峰書店 2005年

地上400メートル、綱の幅はわずか2センチ。
1974年8月7日、当時ニューヨークでいちばん高い建物だった世界貿易センターのツインタワーの間で、綱渡りをなしたげた大道芸人がいました。
警察も出動する大騒ぎの中、彼は1時間も綱の上で踊り、走り、空中での演技を楽しみました。
この信じられないような綱渡りは、ツインタワーが無くなった今も、人々の記憶に残っています。

『このタワーがすごい！』

東京スカイツリーから「太陽の塔」まで！
鈴木重美作 中公新書ラクレ 2011年



『にっぽんタワーめぐり』
イカロス出版 2010年



見上げる？ 登る？ タワー 塔をたのしもう

「塔」と呼ばれる建物には、高さや形の決まりは特に無いそうです。
だから数えきれないほどたくさんの、いろんな「塔」が日本中にあります。全部を知るのはなかなかたいへん。まずは本で、その奥深い魅力にせまってみましょう。

空に向かってまっすぐ伸びる姿は、見ているだけで、なんだか元気が出てきませんか？
今号の「はび」は、来月いよいよ開業！の東京スカイツリー®を記念して、塔=タワーが出てくる13冊をご紹介します。

次回
予告

17号(7月発行)のテーマは「オリンピック」

